

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別講習会（東北）

開催日：2013 年 8 月 23 日

場所：岩手県北上市（調査地点コード 030370）

講師：篠宮・小野（森林総研東北支所）・三浦・阪田（森林総研本所）

概要

東北ブロックを担当する宮城環境保全研究所の担当者 4 名を対象に、地域講習会を実施した。当初、悪天候が予想されたが、当日は曇りで、雨に降られることなく講習会を行うことができた。場所は北上市東部の民有林で、幹線道路から比較的近いことに加え、調査地点まであと 50m くらいのところまで自動車で乗り入れられたなど、アクセスがよかった。調査地点は伐採跡地の一角にそこだけ残されたようなスギ人工林で、傾斜は 35～40 度くらいあった。宮城環境保全研究所は昨年度に続いての担当であり、調査の習熟度が高いと想定されたため、今回の地域講習会では主体的に調査をしてもらい、森林総研側は必要に応じて助言するような形で行うことにした。また、枯死木調査は分解度判定など個人差が影響しそうな項目が含まれているので、全員で行い、関係者の判断基準の統一を図るようにした。

講習会は、9 時から開始し、午前は概況調査・枯死木調査を行った。宮城環境保全研究所の新人担当者 1 名（全体講習会に参加）と全体講習会には参加していないが経験者である 2 名が主体的に枯死木調査を行い、境界の判定、分解度等の習熟度の向上・安定化を図った。森林総研側からは、残存率は分解度が 0 か 1 の場合に記載すればよいことなど、今年度の変更点を中心に情報を伝達した。倒木数が比較的多かったうえに疑問点も多く出されたため、予想より時間を要した。午後、土壌炭素蓄積量調査を 2 グループに別れて行った。NESW の 4 地点のうち、NE の 2 地点が丁度作業道の法面にかかり、1 つは急傾斜、1 つは礫の出現により作業しにくい状況となった。が、担当者らは手間取ることなく作業を進めていた。また、担当者らは、写真撮影後写り具合をすぐ確認したり、石礫率を作業後修正したり、化学分析用試料を奥から採取したりなど、作業手順を細かい点までよく理解していた。新人担当者には、講師ができるだけ付き添うようにし、土壌断面の掘り進め方や堆積有機物層の見分け方など調査の基礎となるような内容についても指導していた。本調査地点は礫が少なく、ブロックサンプリングを実施する状況ではなかったが、作業道法面にかかった 1 地点の層位（15～30cm）では礫が多く、円筒採取が困難と判断されたため、ブロックサンプリングが実施された。これでまた時間を要することにはなったが、担当者にとってはよい経験になったと思う。車に戻った後、試料の確認・リスト作成を行い、全体総括後 18 時頃に解散した。

朝から日没まで長時間の講習会にはなったが、担当者の調査内容に対する理解度の高さを確認できたとともに、担当者からは内容・手順の理解を深められたとの感想をいただいた。今回の講習会で、担当者の理解度の高さを確認できた反面、調査予定地付近を歩いてしまったり、深さ 0cm の竹串の刺し忘れなど若干の作業ミスも見受けられた。そのため、今回の講習会の留意点として、慣れてきた頃にちょっとした間違いを起しやすいため、折にふれてマニュアルを参照して再確認していただくよう注意喚起した。なお、A5 サイズに縮小された耐水性マニュアルやパウチされた石礫率の判定見本などは野外でとても使いやすいと好評であった。



枯死木調査の様子。分解度は全員で判定し、個人差をなくすように努めた。



土壌炭素蓄積量調査の様子。作業が分担されていて、効率よく作業が進められた。



休憩時間も担当者と講師の間で質疑応答のやりとりが続いていた。



宮城環境保全研究所では、堆積有機物採取用に塩ビパイプで自作した専用の方形枠を使っていた。



新人担当者には、講師が長く付き添い、丁寧に説明・指導した。



調査地全体として礫は少なかったが、E地点の層位 15～30cm のみ、ブロックサンプリングが実施された。